

■ 小学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	脇坂 心捺	南郷小学校	6年	誰かのために
優秀賞	大山 郁仁	館岩小学校	6年	当たり前の幸せ
	星 綾香	桧沢小学校	6年	つらくとも前に向かって
	星 周佑	田島小学校	6年	「ポジティブ作戦」
奨励賞	湯田 音色	田島第二小学校	6年	いじめ
	平野 ゆず	伊南小学校	6年	人間みんな平等に
	広野 亮	荒海小学校	6年	「言葉」

■ 中学生の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
最優秀賞	樋口万良子	田島中学校	3年	「命」と共に生きていく
優秀賞	原 琴羽	田島中学校	3年	田島歌舞伎を守るために
	齋藤 百加	南会津中学校	3年	比べること
	星 楓	南会津中学校	3年	勇気を出して
奨励賞	山田 彩音	荒海中学校	3年	夢に向かって
	五十嵐 聖	館岩中学校	2年	夢という名の自由
	佐藤 大雅	館岩中学校	1年	僕のふるさと「高杖原」

■ 高校生・青年の部

審査結果	氏名	学校名	学年	テーマ
優秀賞	五十嵐歌栄	南会津高等学校	2年	充実した学校生活を送るには
	金井日南太	南会津高等学校	3年	自分の命を無駄にはしないで
奨励賞	小沼 千雛	南会津高等学校	3年	多様な性を受け入れる社会へ
	穴戸 鉄兵	南会津高等学校	2年	アルペンレーサー鉄兵

幕間には南会津町観光応援隊として、全国各地そして、海外で活躍している「會津田島太鼓保存会」による和太鼓の演奏が披露されました。

地元の伝承を太鼓の音で表現するストーリー性のある曲と、ダイナミックな演奏が会場に響き渡り、来場者からは盛大な拍手が巻き起こりました。



未来に向けて抱く想い 紡ぐ言葉—

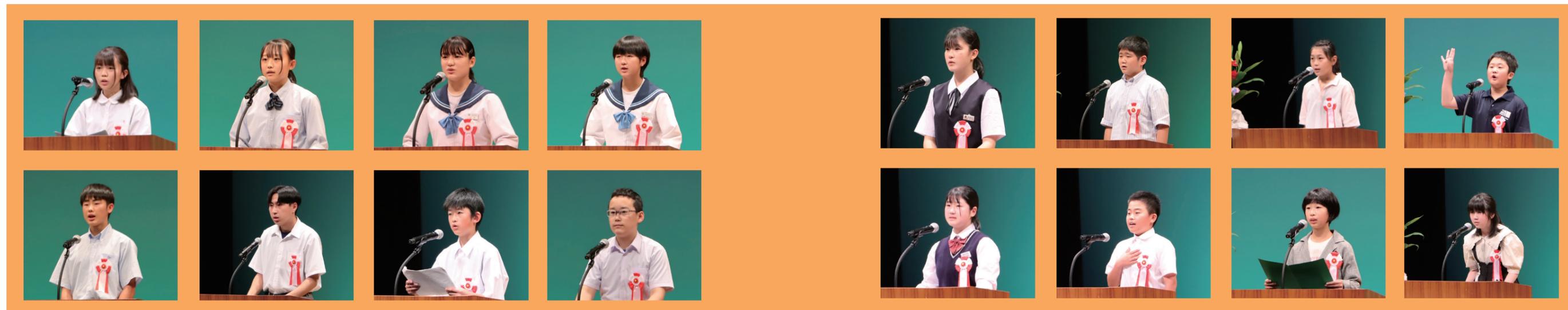
南会津町青少年の主張大会



7月2日、令和5年度南会津町青少年の主張大会を御蔵入交流館文化ホールで開催しました。町内の小・中・高校から計172点の応募があり、学校推薦による18名が発表会に出場しました。

出場した18名の主張のテーマと審査結果をここで紹介するとともに、小学生、中学生の各部門で最優秀賞に輝いた2つの主張を、原文のまま6～7ページにて掲載します。

【問合せ】 生涯学習課 生涯学習係 電話 0241-62-5511





南郷小学校 6年 脇坂 心捺さん

皆さんは、「ドナー」という言葉を知っていますか。ドナーとは、英語で「提供者」を意味する言葉です。臓器移植医療では、心肺停止後には二つの臓器と眼球、脳死後には六つの臓器と眼球を提供することができそうです。他にも白血病の人などに骨髄を提供するものもあります。私は、ドラマをきっかけにドナーのことを知りました。脳死の状態で運ばれた男の子がドナーになり、心臓病の男の子が助かるという話でした。ドナーによって助かる命があるということは、そこには亡くなった命もあるということです。複雑な気持ちになりました。ドラマを見たことで「どのような人がドナーになるのだろうか。自分にできることは

ないだろうか。」と「ドナー」について考えるようになりました。私にもできることはないか、と調べていると、「ヘアドネーション」という言葉に出会いました。「ヘアドネーションとは、小児がんや白血病などの病気、不慮の事故等で髪の毛を失った子どもたちに対し、医療用ウィッグを無償で提供する活動のことです。三十一センチメートル以上まで伸ばした髪の毛を三十人から五十人分集め、ウィッグをつくりまします。ヘアドネーションの活動を知り、「人のためにになりたい」という思いから私も参加することに決めました。実際に髪を伸ばし始めると髪が重く、ぬれた髪を乾かすが大変でイライラすることもありました。

想像していたよりも大変で「もう嫌だ、やめたい。」と思うことも何度もありました。でも、「ウィッグを待つている人がたくさんいるのだ。」と思い、続けました。そして、今年の四月にやつと三十五センチの髪を提供することができました。「必要としている人に早く届いてほしい。喜んでもらえるかな。」私の髪が、誰かの髪になり、役に立っていると思うととてもうれしい気持ちになりました。

最近、母に「心捺は自分が脳死状態になったとき、ドナーになりたい。」と聞かれました。悩んだけれど、「うん。」と答えました。理由はやはり人のためになりたいからです。自分ではもう動かせない体になったときは、提供を待っている人に私の体を使ってほしいです。

私は、ドナーのことを知り、自分にできるヘアドネーションをしたことで「人のために何かを」という考えを持つようになりました。そして、自分が人のためにできることを考え、やってみることを大切にしようになりました。世界には、病気や事故で苦しんでいる人がたくさんいます。多くの

人を助けるためには、多くの人の力が必要です。たくさんの人に「ドナー」についてもっと知ってもらいたいのです。でも、その前に身近に困っている人がいたら、「何かできないかな」と考え行動することが一番大切だと思います。その一歩が誰かの命を助けることにつながると、私は信じています。



堂々と自らの主張を伝える樋口さんと脇坂さん

「育児中のお母さんみたいだね。」夜泣きをする「吉」を抱き、寝かしつけてはベッドに戻る、そんなことを繰り返す私に、母が言いました。「吉」というのは、四ヶ月前から我が家の家族になった犬の名前です。この子は仙台の保護施設から引き取りました。私と母は以前から犬を飼うならペットショップからではなく、保護施設から引き取りたいと話していました。理由はただ一つ、殺処分にされてしまうかもしれない命の一つでも減らしたいと思ったからです。

ということも。それでも例年に比べて一番少ないのだそうです。さらに全国的に見ると年間数万頭に及ぶ犬が殺処分されていることに驚きました。殺処分される子たちは、「ドリームボックス」という部屋の中で窒息死させられるそうです。人間の勝手な判断で繁殖させられて、虐待されたり捨てられたりしたうえに、名ばかりの「夢の箱」の中で苦しみながら死んでいくなんて、絶対におかしいと思います。怒りとともに胸が締めつけられるように苦しくなりました。捨てた人や施設に預けた人は、その後、その犬たちがどうなるのを見届けることはありません。その現場を見るのは保護施設の方々です。その人たちの苦しい胸



田島中学校 3年 樋口 万良子さん

の内を考えたことはあるのでしょうか。以前、母は保護施設で殺処分される動物たちの動画を見たことがあり、今でもその悲惨な状況は目に焼きついています。吉は、地域の助産師をしています。何度も命が生まれる瞬間に立ち会ってきたからこそ、たとえ動物であっても命が軽んじられて見ると辛かったと思います。私も小さい頃から母を見てきたので、「命」について考えたり話したりすることがありました。命が誕生することはどれだけ奇跡的なことなのか、命はどれだけかけがえのないものなのか。それは人間も動物も同じことだと思えます。人間の都合や利益のために生まれ、人間の都合で捨てられ殺されてしまう……。それを仕方ないという言葉だけで片付けないで下さい。「殺処分」という言葉にも違和感があります。処分する動物の命はモノやゴミではないはず。決して処分してよいものではないと思います。確かに肉や魚を食べる人間は、動物の命をいただいています。でもそれは生きるためです。何の目的もなく命を奪うのは、人間のエゴでしかないと思います。

保護犬の多くは人間の愛情に恵まれず、初めのうちは人間を信用していません。そして動物は言葉が話せません。だからこそ、吉に寄り添い、私たちが今までの辛さを忘れさせるくらいの愛情を注いであげたいと思っています。吉という名前は、「大吉」にちなんで、今まで辛い思いをした分、幸せになっしてほしいという願いを込めてつけました。吉が家族になったことで、弟はゲームの時間が減り、吉の面倒をみるようになりました。父は今まで以上に家族との時間を大切にしてくれるようになりました。家族の笑顔も増えました。吉が我が家に幸せを運んでくれたのです。家族の一員として最期まで責任をもって育てていきたいと思えます。動物を飼われている皆さん、これから飼おうとしている方、どうか一つの命に真剣に向き合ってください。大切にしてください。

私の息子、「吉」はどうか夜泣きは治まりましたが、こっそり私の布団に入ってくるようになりました。私はこれからも育児中の母として、我が子を大切に育てていきたいと思っています。